

○ 本校の概要

○ 学級数 22学級 ○ 児童数 705名 (令和5年5月1日現在) ○ 教員数 32名 …校長1, 副校長1, 主幹教諭2, 指導教諭1, 主任教諭5, 主任養護教諭1, 教諭21 (随時的任用、休業等含む) ○ 行政系職員2名 (事務、栄養士) ○ その他、会計年度任用職員・委託・派遣職員 ○ 校内研究 研究主題「互いの考えを認め合い、高め合える児童の育成」 一生活科・総合的な学習を通して ○ 特色ある教育活動 … 馬込の特色を生かした地域学習の充実「シクラメン栽培」「大森妻わら細工」「馬込半白胡瓜等特産野菜の栽培」「馬込はかせになろう」、タブレットを活用した「馬込家庭学習DX」 ○ 体験活動、人との関わりを大切に活動の重視 ○ 学校支援地域本部「スクールサポートまごめ」と連携した教育活動 ○ 教員の交換授業 (第5, 6学年における一部教科担任制)、中・高学年での副担任制の導入
--

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価 人数	コメント	
プラン1 未来社会を創造的に生きる子供の育成	コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にやさしく対応する子どもの力と自信を身に付けます。	外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3	C(児童): 「コンピュータやインターネットなどを活用して情報を収集し、自分の考えをまとめる」を「発表したりする」と回答した6年児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「学校は、外国語教育、論理的・科学的な思考力の育成、ICT活用等の今日の課題に対応した教育活動の推進に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合	2 C3 (89) P2 (76)	昨年度の校内研究等の成果もあり、授業におけるICT活用は各教員が積極的に取り組んできた。それに伴い児童のタブレット活用スキルも着実に向上している。反面、適切でない活用も一部に見られた。引き続き問題への対策と児童へのモラル指導にしっかりと取り組んでいく必要がある。 外国語及び外国語活動については、特にALTと連携した活動の充実が図られ、児童にとってネイティブな外国語がより身近なものになってきている。イングリッシュカフェや放送によるイングリッシュライナーなど、本校ならではの取組も実践されてきた。 校内研究では近々始める区独自教材「おたの未来づくり」のキャリア学習構想を推進しながら、生活・総合の研究を進めている。 保護者アンケートの項目に対して「わからない」という回答が全回答の12.7%を占めている。質問項目の内容の捉えにくさや児童の受容性の差に配慮し、学校広報を通じた理解促進の取組がまだ十分とはいえない面がある。昨年度に引き続き課題である。	A	5	○ICT等の活用で教育活動が活発に行われていると感じます。
		論理的・科学的な思考力の育成を目指し、「おたのものづくり」を生かした体験活動や授業を実施する。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	3				○幼い頃からネイティブの発音に触れる機会が多いことは、とても素晴らしいことだと感じます。イングリッシュカフェ、イングリッシュライナーなど今後馬込ならではのイベントで大田区の子どもたちを引っ張ってほしいです。		
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	4:80%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 3:70%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 2:60%以上の正規教員がChromebookに月に10日以上ログインし活用した。 1:60%未満であった。	4				○先生方が工夫して授業されている事に対して評価できるが、保護者に対しての伝え方に工夫が必要と感じました。		
		他者の人権を尊重する人権教育の推進を目指し、人権教育資料等を活用した授業を実施する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	3				○自己の確立にかかわる最重要となる事と考えます。十人十色、700人700色を失敗を繰り返しながらあこがれのモデルを探事も教育の一つではないかと考えます。		
プラン2 学力の向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:対象となる全学級(全教員)で行った。 3:80%以上で行った。 2:60%以上で行った。 1:60%未満であった。	4	C(児童): 学校評価児童アンケート「授業で学習したことがよくわかる」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「子どもは、基礎的な学力を身に付けている」で肯定的な回答をした保護者の割合	3 C4 (90) P3 (89)	成果評価「4」にはわずかに達しなかったものの、アンケート結果は児童、保護者共に肯定的な回答の割合が高かったと捉えている。 一人一人の「わかった・できた」という自覚は、自己肯定感や次の学習への意欲につながるものであり、引き続き大切にしたい。大田区学習効果測定の結果に基づく学習カルテ等を活用しながら、児童の学習意欲の向上を高めたい。 確かな学力の定着を目指し、学習の見直しと振り返りを重視し主体的に学習に取り組む児童を育成する授業づくりに努めていく。	A	5	○自己肯定感については、個々人に合う姿勢が重要であると感じます。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	4:学期に2〜3回知らせた。 3:学期毎に知らせた。 2:年度間に1回は知らせた。 1:お知らせできなかった。	3				○現状のまま。		
		学習補助員等による算数・数学・英語の補習を実施する。	4:対象児童・生徒への出席を全教員が働きかけた。 3:80%以上の教員が働きかけた。 2:60%以上の教員が働きかけた。 1:60%以下の教員が働きかけた。	4				○次年度、評価が2期制に移行するにあたりチェックシートで保護者に到達度を共有することの重要性は増すものと思います。連絡連携を密にしていきたいことを期待します。		
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				○先生方がとても丁寧に授業をされていると思います。特に学習補助の先生も授業に加わり、個別につまずき等をなくすよう補助をされていることはとても難しいです。これからは様々な取り組みに期待したいと思います。		
プラン3 豊かな心の育成	子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重するなど、未来への希望に満ちた豊かな心をはぐくみます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:全教員が行った。 3:80%以上の教員が行った。 2:60%以上の教員が行った。 1:60%未満であった。	4	C(児童): 学校評価児童アンケート「きまりを守って行動している」及び「自分や友達のことを大切にしている」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「子どもは、やさしく思いやりのある子に育ってきている」及び「学校は、児童の基本的な生活習慣や規範意識などを育てる心の教育の推進に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合	3 C3 (88・95) P3 (96・88)	落ち着きある学校生活を送ることができている児童、自他を尊重する心を大切にしている児童が多いのは、本校のよさだと捉えている。 生活指導に関しては「馬込生活スタンダード」を全校の共通目標として掲げるとともに、定期的な評価を行うことで児童の様子を各家庭と共有している。 道徳教育についても、道徳日より「こころのたね」を隔月発行するなどして本校の取組を積極的に知らせるとともに、道徳授業地区公開講座における各学級での協議、アンケートによる道徳教育に関する保護者の意識調査等を実施することで、啓発を図ることに努めてきた。 児童生活への適応に課題のある児童も見られる。今後家庭はもちろん、教育センターや適応指導教室、フリースクール、医療等の外部機関等とも連携しながら、一人一人に応じたよりよい対応の在り方について柔軟に検討していく。	A	6	○子どもたちの笑顔がよく見られる。思いやりの心が育っていると感じました。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回以上行った。 1:実施しなかった。	2				○保護者から「やさしく思いやりのある子に育ってきている」という項目で高いパーセントを得ているのは、馬込での生活が心地よいかも感じられます。うまく学校生活を送ることが困難な児童に対して色々な検討がなされている所も頭が下がります。		
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				○現状のまま。		
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	4:「組織的対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				○家庭のウエイトが50%以上あると思います。あまり小さ過ぎることにこだわりすぎず、適材適所で進めることも許容かと考えます。		
プラン4 体力の向上と健康の増進	スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。	問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	4:必要な事案に対して必ず会議を実施し、組織的に対応した。 3:必要な事案に対しておたの会議を実施した。 2:必要な事案に対しておたの会議を実施しなかった。 1:必要な事案に対してほとんど会議を実施せず、組織的な対応をしなかった。	4	C(児童): 学校評価児童アンケート「運動が好きで、すずんで体を動かしている」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「子どもは、体力や運動能力、運動への意欲や健康への関心を高めている」及び「学校は、児童の体力向上や健康増進の推進に努めている」で肯定的な回答をした保護者の割合	2 C2 (76) P2 (79・85)	本年度から校舎増築工事が本格的に開始され、日々の運動や外遊び等を行う上で対応を工夫してきた。令和6年度にプールが使用できなくなることを念頭に置いた学習計画をはじめ、体育的行事の実施方法なども児童の安全と運動量、運動を通して得られる充実感との両立を目指して柔軟に計画を見直してきた。 独自の取組である「馬込チャレンジ」の取組には不十分な面もあった。運動への意欲や運動習慣については、児童による個人差も大きい。体力向上に向けた学校全体での取組や体育的行事等、校舎増築工事の進捗を考慮しながら充実させていきたい。	A	5	○工事が終われば改善されると思います。
		児童の基本的な学習・生活習慣の確立を目指して、「馬込生活スタンダード」に基づく指導を継続的に行う。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				○限られたスペースの中でも色々な工夫、また先生や保護者の協力により、子どもたちは充実したスポーツ体験をしていると感じます。		
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4				○限られた環境の中での体力向上に向けた取組は大変なことだと察します。ジュニアラリーにもお手伝いできることがあると思いますので連絡ください。		
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	4:全教員で行った。 3:80%以上の教員で行った。 2:60%以上の教員で行った。 1:60%未満であった。	4				○規則正しい習慣は家庭が80%と思います。学校では楽しく何でも体を動かせば腹も減り食事がおいしくなると感じます。		
プラン5 魅力ある教育環境づくり	児童・生徒が安全・安心に学校生活を営むために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくりまします。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4	C(児童): 学校評価児童アンケート「先生は、わからないことやこまったことがあるときに、助けてくれたり相談のつづけてくれたりする」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「教員は、教え方を工夫している」で肯定的な回答をした保護者の割合	3 C3 (85) P3 (89)	成果指標「4」にはわずかに達しなかったが、アンケート結果では肯定的な回答の割合が高かったと捉えている。 児童の実態を把握、共有しながら、学習指導や生活指導の向上に努めてきた。特別支援教育校内委員会を計画的に実施し、巡回指導員等とも連携を密にして児童一人一人の困り感や保護者のニーズ等にに対応してきた。 校内研究では、区独自教材として始まる「おたの未来づくり」のキャリア学習を推進しながら、生活・総合的な学習の時間の指導の充実を目指してきた。	A	6	○先生方の負担が大きくなりすぎる事を願っています。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	4:学期に2〜3回(年間6回)以上行った。 3:学期に1回(年間3回)以上行った。 2:年度間に1回は以上行った。 1:実施しなかった。	4				○毎日、時間に追われ忙しなかたなかで色々な事柄に対応している先生方の姿はまさに頼もしく感じます。子どもたちの味方でいてくれる先生方がいるお陰でこの高い結果が出ているのだと思います。		
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	4				○現状のまま。		
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	4:1回以上行った。 3:学期に2〜3回以上行った。 2:学期1回以上行った。 1:実施しなかった。	4				○特に運動会の際に教員間の暗黙の了解を強く感じました。現場の教員と管理職が助け合いが美しかったです。大きな事故もなく終了した事もすごいですが、その姿を児童が見ていたことが大きい。		
プラン6 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開し更新することにより、積極的に情報を発信する。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	C(児童): 学校評価児童アンケート「宿題や家庭学習をしっかりとやっている」及び「学校や地域のことが好き」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「学校は、教育活動や学校の様子を学校公開や保護者会、学校行事、おたよりやホームページ等を活用して積極的に伝えている」で肯定的な回答をした保護者の割合	3 C3 (81・86) P4 (91)	児童の家庭学習への取組には個人差が見られる。新おたの教育センターの設置を踏まえ、大田区家庭学習推進校として取り組んできた研究成果を、日々の実践に反映させていく。 家庭・地域と共に歩む学校づくりを目指し、その一環として学校広報には常に力を入れて取り組んできた。特に学校ホームページでは学校の様々な取組や日々の様子を「馬込の日々」として毎日更新してきた。目標として設定した掲載数(毎月40記事以上)(8月を除く)、年間440記事以上)を十分に達成しており、保護者アンケートの結果もおおむね好評である。 一方、次年度に予定される給食室改修工事に対するネガティブな反応もいくつか、情報発信の難しさを感じた。行政と連携しLPTAの力を借りながら、児童や各家庭の切実な課題に寄り添った対応を心がけていく。	A	7	○給食室工事は大きな変化です。お弁当問題は働く両親保護者には一大事だということもわかります。行政、地域、PTAなどと連携して対応しているのはさすが馬込だと感じます。ホームページ更新お疲れ様です。日々の充実した内容にご負担が大きいと感じる心配になるほどです。
		学校支援地域本部と連携するなど、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2〜3回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4				○現状のまま。		
		家庭との連携により「馬込家庭学習DX」を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				○家庭学習については受験を考えたかどうか、家庭ごとに目標や課題が異なります。こちらは柔軟に家庭ごとの事情を考慮した目標設定を可能にしていきたいけれど保護者として考えます。		
		家庭との連携により「馬込家庭学習DX」を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				○今までは行事等に制限があったが、その後は町会の行事等に保護者も一緒に積極的に参加されている。		
プラン6 なつて校も進め地域が一体と	学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に関わった教育の実現を目指します。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。	地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	4:1回以上更新した。 3:学期に2〜3回更新した。 2:学期1回以上更新した。 1:更新しなかった。	4	C(児童): 学校評価児童アンケート「宿題や家庭学習をしっかりとやっている」及び「学校や地域のことが好き」で肯定的な回答をした児童の割合 P(保護者): 学校評価保護者アンケート「学校は、教育活動や学校の様子を学校公開や保護者会、学校行事、おたよりやホームページ等を活用して積極的に伝えている」で肯定的な回答をした保護者の割合	3 C3 (81・86) P4 (91)	児童の家庭学習への取組には個人差が見られる。新おたの教育センターの設置を踏まえ、大田区家庭学習推進校として取り組んできた研究成果を、日々の実践に反映させていく。 家庭・地域と共に歩む学校づくりを目指し、その一環として学校広報には常に力を入れて取り組んできた。特に学校ホームページでは学校の様々な取組や日々の様子を「馬込の日々」として毎日更新してきた。目標として設定した掲載数(毎月40記事以上)(8月を除く)、年間440記事以上)を十分に達成しており、保護者アンケートの結果もおおむね好評である。 一方、次年度に予定される給食室改修工事に対するネガティブな反応もいくつか、情報発信の難しさを感じた。行政と連携しLPTAの力を借りながら、児童や各家庭の切実な課題に寄り添った対応を心がけていく。	A	7	○給食室工事は大きな変化です。お弁当問題は働く両親保護者には一大事だということもわかります。行政、地域、PTAなどと連携して対応しているのはさすが馬込だと感じます。ホームページ更新お疲れ様です。日々の充実した内容にご負担が大きいと感じる心配になるほどです。
		学校支援地域本部と連携するなど、地域力を生かした特色ある教育活動を実施する。	4:学期に2〜3回以上行った。 3:学期1回以上行った。 2:年1回以上行った。 1:実施しなかった。	4				○現状のまま。		
		家庭との連携により「馬込家庭学習DX」を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				○家庭学習については受験を考えたかどうか、家庭ごとに目標や課題が異なります。こちらは柔軟に家庭ごとの事情を考慮した目標設定を可能にしていきたいけれど保護者として考えます。		
		家庭との連携により「馬込家庭学習DX」を推進する。	4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上の教員が回答した。 2:60%以上の教員が回答した。 1:60%未満であった。	3				○今までは行事等に制限があったが、その後は町会の行事等に保護者も一緒に積極的に参加されている。		

※「評価」欄が無記入であった項目については、数値に代わってありません。所見は基本的なところにだけ記載しております。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。